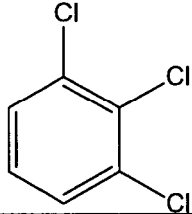


既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-74	CAS No.	87-61-6
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：1, 2, 3-トリクロロベンゼン <div style="text-align: center;">  </div>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響の毒性 情報	<p>[EHC128 より引用]</p> <p>染色体異常試験：[衛生試験所報告, 103, 64, (1985)より引用]</p> <p>陰性 CHL/IU 使用</p> <p>    - S9mix 群：0.125mg/mL</p> <p>    + S9mix 群：0.125mg/mL</p> <p>    24 時間処理群：0.0625mg/mL</p> <p>    48 時間処理群：0.0625mg/mL</p> <p>反復投与試験</p> <p>    13 週間：[Drug Chem Toxicol., 11, 11 (1988)より引用]</p> <p>    ラット混餌投与 用量：1, 10, 100, 1000ppm</p> <p>    NOAEL：100ppm(♂：7.6mg/kg/day, ♀：12 mg/kg/day)</p> <p>    体重減少：1000ppm、相対重量(肝・腎↑：1000ppm)、</p> <p>    肝-小葉中心性/小葉中間帯の肝細胞核の大小不同・肝細胞の肥大：1000ppm、</p> <p>    甲状腺-濾胞サイズの減少・上皮の丈の増長：1000ppm</p> <p>催奇形性：[Bull Environ Contam Toxicol., 41, 719 (1988) より引用]</p> <p>    ラット 妊娠 6-15 日(精子発見日=妊娠 1 日)投与、用量：150, 300, 600mg/kg/day</p> <p>    母体への影響；血液学的検査(Hct↓：600、Hgb↓：300 以上)、</p> <p>    相対重量(肝↑：600)、</p> <p>    組織学的所見(甲状腺-濾胞サイズの減少・上皮の丈の増長：300 以上、</p> <p>        肝-小葉周辺性の肝細胞質好酸性化・肝細胞核の大小不同：300 以上)</p> <p>    胎児への影響：特になし</p> <p>小核試験：Mutagenesis, 2, 111 (1987)</p> <p>    陽性</p> <p>    NMRI マウス、腹腔内投与 1 群 5 匹</p> <p>    4 投与群(250, 500, 750, 1000mg/kg)</p> <p>[Environmental Mutagenesis Supplement より引用]</p> <p>Ames 試験</p> <p>    陰性</p> <p>    純度 97% 溶媒 DMSO</p> <p>    TA98, TA100, TA1535, TA1537</p> <p>    - S9mix 群：333.3 μ/plate</p> <p>    + S9mix 群：333.3 μ/plate</p>		

人健康影響判定根拠	小核試験は陽性、反復投与毒性試験はNOAEL7.6mg/kg/dayであることから、継続的に摂取される場合人の健康を損なうおそれの疑いがあるため、第二種監視化学物質相当				
藻類生長阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養（密閉系） 試験濃度： 設定濃度 0.050、0.12、0.28、0.64、1.5、3.4、8.0 mg/L 実測濃度 0.037、0.094、0.23、0.54、1.3、3.2、7.9 mg/L（幾何平均値） 助剤： DMF 及び HCO-40（1:4） 80 mg/L 0-72hErC50（実測値に基づく） =1.9 mg/L 0-72hNOECr（実測値に基づく） =0.094 mg/L				
ミジンコ急性遊泳阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 試験濃度： 設定濃度 0.10、0.18、0.32、0.56、1.0 mg/L 実測濃度 0.074、0.14、0.26、0.44、0.79 mg/L（幾何平均値） 助剤： DMF 及び HCO-40（8:25） 33 mg/L 48hEiC50（実測値に基づく） =0.46 mg/L				
ミジンコ繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、週に3回換水 試験濃度： 設定濃度 0.020、0.045、0.10、0.22、0.50 mg/L 実測濃度 0.016、0.034、0.082、0.17、0.39 mg/L（時間加重平均値） 助剤： DMF 及び HCO-40（1:1） 20 mg/L 21dNOEC（実測値に基づく） =0.17 mg/L				
魚類急性毒性	生物種： ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法： OECD-TG203 試験方式： 半止水式、24時間毎に換水 物質濃度： 設定濃度 1.0、2.0、4.0、8.0、16 mg/L 実測濃度 0.80、1.8、3.7、6.5、14 mg/L（幾何平均値） 助剤： DMF 及び HCO-40（1:4） 80 mg/L 96hLC50（設定値に基づく） =3.2 mg/L  また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 1.0 mg/L 群： 異常遊泳（48hr 3/10、72hr 5/10、96hr 10/10） 2.0 mg/L 群： 異常遊泳（24hr 10/10、48hr 4/10、96hr 4/10） 遊泳不能（48hr 6/10、72hr 10/10、96hr 6/10） 4.0 mg/L 群： 遊泳不能（24hr 7/7、48hr 3/3、72hr 2/2、96hr 2/2）				
生態影響判定根拠	藻類生長阻害試験において 0-72hNOECr=0.094mg/L であり、ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.46mg/L であり、かつ魚類急性毒性試験において 96hLC50=3.2mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。				
環境調査※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S50	0/95	—	0.08~0.3(μg/L)
		S54	2/111	0.05~0.07(μg/L)	0.01~0.4(μg/L)
	底質	S50	0/95	—	0.002~0.1(μg/g-dry)
		S54	19/111	0.0004~0.058(μg/g-dry)	0.0001~0.1(μg/g-dry)
魚類	S50	0/75	—	0.005~0.1(μg/g-wet)	
	S54	0/93	—	0.0001~0.1(μg/g-wet)	
雨水	S50	0/24	—	0.00008~0.0003(ppm)	

	大気	S61 H11	22/73 38/38	1.1~12(ng/m <sup>3</sup> ) 0.018~11(ng/m <sup>3</sup> )	1.0(ng/m <sup>3</sup> ) 0.015(ng/m <sup>3</sup> )
備考	※1 S51、S55、S62、H12 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)				



	NOEL	100 mg/kg/day			
	推定根拠	摂水量↑：300 以上♂・1000 ♀ 一般状態(流涎：300 以上♂♀) 血液生化学的検査(Alb 分画↑・A/G↑・K↑：300 以上♂、Cho↑300 以上♀) 絶対重量(肝↑：300 以上♀) 相対重量(肝↑：300 以上♀・1000♂、腎↑：300 以上♂・1000 ♀) 組織学的所見(腎-硝子滴変性：300 以上♂)			
	他の毒性	体重↓：1000♂ 血液学的検査(Plt↓：1000 ♀) 血液生化学的検査(GPT↑：1000 ♀、Na↓：1000♂)			
	回復性	摂水量↑			
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験が陰性、NOEL100 mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当でない				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出限界
	水質	S51	0/20	—	0.1 (μg/L)
	底質	S51	0/20	—	0.01 (μg/g-dry)
	大気	H10	39/42	370~10000(ng/m <sup>3</sup> )	370(ng/m <sup>3</sup> )
備考	※1 S52、H11 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)				



推定根拠	尿検査(尿 pH ↓・尿沈渣 (リン酸塩) ↑ : 60 以上♀・250♂、 蛋白 ↑・尿ケトン体 ↑ : 60 以上♀) 血液生化学的検査(Pi ↑ : 60 以上♀) 組織学的所見(盲腸—吸収上皮細胞の空胞化・粘膜の細胞浸潤 : 60 以上♂♀、 結腸—吸収上皮細胞の空胞化 : 60 以上♂♀、 結腸—細胞浸潤 : 60 以上♀)
他の毒性	血液学的検査(Plt ↑ : 250♂♀、Lympho ↓・Seg ↑ : 250♀) 血液生化学的検査(Cho ↑ : 250♂♀、PL ↑・Glu ↓・BUN ↑ : 250♀) 相対重量(肝 ↑ : 250♂♀) 組織学的所見(回腸—粘膜の過形成 : 250♂♀、 直腸—粘膜の細胞浸潤 : 250♂♀、 肝臓—小葉中心性肝細胞肥大 : 250♂♀、 腸間膜リンパ節—傍皮質領域のtingible body macrophage : 250♂♀)
回復性	回腸—粘膜の過形成、盲腸—粘膜の細胞浸潤

他の毒性

[NTP より引用]

反復投与

- ・ Rat 混餌投与(250, 500, 1000, 2500, 5000 ppm)、13 週間  
 (♂ : 15, 30, 60, 165, 315 ♀ : 15, 35, 70, 170, 325 mg/kg/day)  
 体重↓(5000♂♀)  
 摂餌量↓(5000♂♀)  
 血液学的検査(Hct↓・Hgb↓ : 1000 以上♂、MCV↓ : 1000 以上♂・5000♀、WBC↑・Seg↑ : 5000♂♀)  
 血液生化学的検査(AIP↑ : 2500 以上♂、ALT↑ : 2500 以上♂♀)  
 絶対重量(肝↑ : 5000♂♀)  
 相対重量(肝↑ : 2500 以上♂・5000♀)、  
 組織学的所見(肝-クッパ<sup>o</sup>-細胞肥大・胆管増生・単細胞壊死 : 2500 以上♂♀、  
 小葉中心性肝細胞肥大 : 5000♂♀、腸間膜リンパ<sup>o</sup> 節-マクロファージ<sup>o</sup>↑ : 2500 以上♂♀)  
 腎-皮質尿細管上皮色素沈着・変性 : 2500 以上♂♀、腎-皮質尿細管上皮壊死 : 5000♂♀)  
 FOB(前肢・後肢握力↑ : 1000 以上♂♀) (1000,2500 のみ検査)
- ・ Mice 混餌投与(100, 250, 500, 1000, 2500 ppm)、13 週間  
 (♂ : 15, 30, 65, 145, 345 ♀ : 10, 35, 60, 165, 340 mg/kg/day)  
 体重↓(2500♂・500 以上♀)  
 摂餌量↓(2500♂♀)  
 血液学的検査(RBC↓・Hct↓ : 1000 以上♂♀、Hgb↓・MCV↓ : 2500♂♀)  
 絶対重量(肝↑ : 2500♂♀、脾↑ : 500 以上♂・2500♀)  
 相対重量(肝↑ : 2500♂♀、脾↑ : 500 以上♂・2500♀)  
 組織学的所見(肝-クッパ<sup>o</sup>-細胞肥大・胆管増生 : 2500♂♀、腸間膜リンパ<sup>o</sup> 節-マクロファージ<sup>o</sup>↑ : 2500♂♀)
- ・ Rat 混餌投与(500, 1000, 2500 ppm)、2 年間  
 (♂ : 20, 40, 100, ♀ : 20, 45, 120 mg/kg/day)  
 体重↓(2500♂)  
 血液学的検査(Hct↓ : 1000 以上♂\_15M・2500♀\_9M、  
 Hgb↓ : 1000 以上♂\_15M・2500♀\_9・15M、RBC↓ : 1000♂\_15M、  
 MCH↓・MCHC↓ : 2500♀\_9・15M)  
 血液生化学的検査(AIP↑ : 1000 以上♂\_3・9・15M・2500♀\_15M、ALT↑ : 2500♂♀  
 \_3・9・15M・2500♀\_3・9M・1000♀\_15M、SDH↑ : 2500♂♀\_3・9・15M)  
 絶対重量(肝↑ : 2500♀\_15M)  
 相対重量(肝↑ : 1000 以上♀\_15M・2500♂\_15M)  
 組織学的所見(肝-肝細胞空胞化 : 2500♀\_15M・1000♀\_24M・500 以上♂\_15M、肝  
 -肝細胞脂肪化 : 2500♀\_24M、肝-クッパ<sup>o</sup>-細胞肥大 : 2500♂♀\_15・24M、肝-好  
 塩基性巣増加 : 2500♂\_15M、肝-混合細胞巣増加 : 1000 以上♂\_24M・2500♀  
 \_15M・1000♀\_24M、腎-腎症 : 2500♀\_15・24M)
- ・ Mice 混餌投与(250, 500, 1000 ppm)、2 年間  
 (♂ : 30, 60, 145, ♀ : 45, 110, 255 mg/kg/day)  
 体重↓(1000♂・250 以上♀)  
 血液学的検査(RBC↓ : 1000♂♀\_15M、Hgb↓・Hct↓ : 1000♂\_15M)  
 血液生化学的検査(AIP↑ : 1000♂\_3M・500 以上♂\_9M・1000♀\_9M・500 以上♀  
 \_15M、Bil↑ : 1000♂\_3M・250 以上♂\_9・15M・1000♀\_9M)

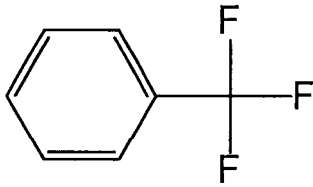
変異原性

- ・ Ames 試験 (TA98, TA100, TA1535, TA1537) :  
 陰性 (With and without metabolic activation)
- ・ 染色体異常試験 (CHO cells)  
 陰性 (With and without metabolic activation)



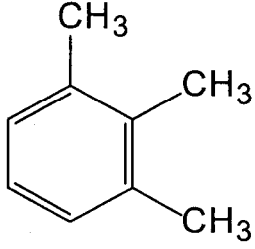
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験が陰性であるが、NOEL15 mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出限界
	水質	S56	0/18	—	1~5( $\mu\text{g/L}$ )
	底質	S56	0/18	—	0.01~0.2( $\mu\text{g/g-dry}$ )
	魚類	—	—	—	—
備考	※1 S57 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-86	CAS No.	98-08-8
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：(トリフルオロメチル) ベンゼン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 $\geq 98\%$ . 溶媒 (DMSO-溶解). プレート法 TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. 5000 $\mu$ g/plate まで実施した用量設定試験結果を参考に以下の濃度まで実施. (本試験 I) -S9mix 群 : 1000 $\mu$ g/plate (TA1535 : 500 $\mu$ g/plate 以上で菌の生育阻害 TA100,TA1537 : 最高用量で菌の生育阻害) 2000 $\mu$ g/plate (TA98 : 1000 $\mu$ g/plate 以上で菌の生育阻害 WP2uvrA : 最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 1000 $\mu$ g/plate (TA1535 : 500 $\mu$ g/plate 以上で菌の生育阻害 TA1537 : 最高用量で菌の生育阻害) 2000 $\mu$ g/plate (TA98,TA100,WP2uvrA : 最高用量で菌の生育阻害) (本試験 II) -S9mix 群 : 1000 $\mu$ g/plate (TA100, TA1535, TA1537 : 500 $\mu$ g/plate 以上で菌の生育阻害 TA98,WP2uvrA : 最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 1000 $\mu$ g/plate (TA1537 : 500 $\mu$ g/plate 以上で菌の生育阻害 TA1535 : 最高用量で菌の生育阻害) 2000 $\mu$ g/plate (TA98 : 1000 $\mu$ g/plate 以上で菌の生育阻害 TA100,WP2uvrA : 最高用量で菌の生育阻害)		
染色体 異常	陰性 純度 $\geq 98\%$ . 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU. 1.5mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 1.5 mg/mL +S9mix 群 : 1.5 mg/mL 24 時間処理群 : 0.3 mg/mL (細胞毒性のため 0.15mg/mL まで観察) 48 時間処理群 : 0.3 mg/mL (細胞毒性のため 0.15mg/mL まで観察)		
反復経口投与 毒性・生殖発 生毒性併合試 験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒 : コーン油	
	純度	99.7%	
	用量	3 投与群 (20, 100, 500 mg/kg/day)	
	死亡	本試験(100 : ♀1/12、500 : ♂1/12・♀1/12→投与済、 500 : ♀1/12' 分娩後死亡)	
NOEL	反復投与 : 20 mg/kg/day 生殖発生毒性 : 20 mg/kg/day 未満		

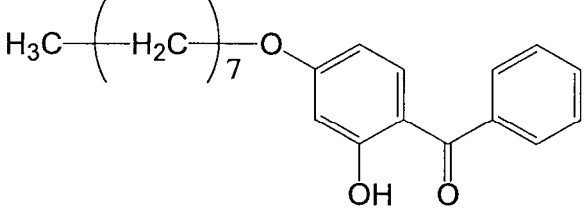
	推定根拠	反復投与 相対重量(肝↑：100以上♂・500♀) 組織学的所見(肝－小葉中心性肝細胞肥大：100以上♂♀、 腎－近位尿細管硝子滴・近位尿細管壊死・近位尿細管拡張・ 近位尿細管塩基性化：100以上♂) 生殖発生毒性 新生児体重↓：20以上
	他の毒性	反復投与 血液生化学的検査(TP↑・Alb↑・Cho↑・TG↑・PL↑・Glu↓：500♂) 絶対重量(肝↑：500♂♀、腎↑：500♂) 相対重量(腎↑：500♂) 組織学的所見(胸腺－皮質萎縮：500♀) 生殖発生毒性 新生児生存率↓：500
	回復性	実施せず
人健康影響判定根拠	Ames試験及び染色体異常試験が陰性であるが、NOEL20 mg/kg/day (生殖発生毒性については20 mg/kg/day未満)であることから第二種監視化学物質相当	
備考		

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-7 3-3427	CAS No.	526-73-8
判定案	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない		
名称 構造式等	名称：1, 2, 3-トリメチルベンゼン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 90.8%. 溶媒 (DMSO-溶解). *純度換算あり TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. (本試験 I) -S9mix 群 : 45.4 μg/plate* (最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 45.4 μg/plate* (TA100,TA1535,TA1537 : 最高用量で菌の生育阻害) 182 μg/plate* (TA98, WP2uvrA : 最高用量で菌の生育阻害) (本試験 II) -S9mix 群 : 45.4 μg/plate* (最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 45.4 μg/plate* (TA100,TA1535,TA1537 : 最高用量で菌の生育阻害) 182 μg/plate* (TA98, WP2uvrA : 90.8 μg/plate 以上で菌の生育阻害)		
染色体 異常	陰性 純度 90.8%. 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU. *純度換算あり 0.726mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 0.480 mg/mL +S9mix 群 : 0.960 mg/mL (細胞毒性のため 0.480mg/mL まで観察) 24 時間処理群 : 0.360 mg/mL 48 時間処理群 : 0.240 mg/mL (確認試験) +S9mix 群 : 0.80mg/mL		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒 : コーン油	
	純度	99.8 %	
	用量	本試験 3 投与群 (100, 300, 1000 mg/kg/day) 追加試験 3 投与群 (3, 10, 30 mg/kg/day)	
	死亡	-	
	NOEL	30 mg/kg/day	
推定根拠	血液学的検査(PT ↑ : 100 以上♂, APTT ↑ : 100 以上♂♀) 血液生化学的検査(Cl ↓ : 100 以上♀・1000♂)		

	他の毒性	一般状態(流涎：1000♂♀) 血液生化学的検査(Cho↑：1000♂♀、TP↑：1000♀) 絶対重量(腎↑：300以上♂、肝↑：1000♂♀) 相対重量(腎↑：300以上♂、肝↑：1000♂♀) 組織学的所見(肝-肝細胞腫脹：300以上♂、1000♀、 腎-石灰沈着・好酸性小体・蛋白円柱・管腔拡張：1000♂、 腎-硝子滴変性：300以上♂、脾臓-うっ血：1000♀)  回復期 脾臓-髓外造血			
	回復性	APTT↑、TP↑、腎↑、腎-好酸性小体・管腔拡張・細胞浸潤			
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験が陰性、NOEL30mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当でない				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出限界
	水質	S51	0/20	—	0.1(μg/L)
	底質	S51	0/20	—	0.01(μg/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	※1 S52 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-141	CAS No.	1843-05-6
判定案	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない		
名称 構造式等	<p>名称：2-ヒドロキシ-4-(オクチルオキシ)ベンゾフェノン</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性          純度≥99%. 溶媒 (DMSO-溶解).          TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA.          (本試験 I, II)          -S9mix 群: 5000 μg/plate (625 μg/plate 以上で被験物質の析出)          +S9mix 群: 5000 μg/plate (625 μg/plate 以上で被験物質の析出)</p>		
染色体 異常	<p>陰性          純度≥99%. 溶媒 (アセトン-溶解). CHL/IU.          5.0mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施.          -S9mix 群: 5.0 mg/mL(全用量で被験物質の析出)          +S9mix 群: 5.0 mg/mL(全用量で被験物質の析出)          24 時間処理群: 5.0 mg/mL(全用量で被験物質の析出)          48 時間処理群: 5.0 mg/mL(全用量で被験物質の析出)</p>		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒: 0.1% Tween80 添加 0.5% CMC-Na 水溶液	
	純度	≥99 %	
	用量	3 投与群 (20, 140, 1000 mg/kg/day)	
	死亡	-	
	NOEL	1000 mg/kg/day	
	推定根拠	全群で特に毒性学的影響は認められていない	
	他の毒性	-	
回復性	問題なし		
人健康影 響判定根 拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL1000 mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当ではない		
備考			



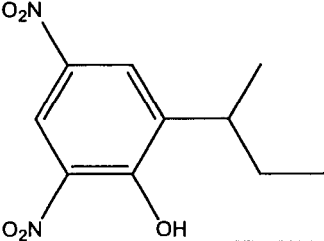
	<p>剖検所見(盲腸一拡張：250♂♀)  組織学的所見(肝一小葉中心性肝細胞肥大：250♂♀、  腎一皮髓境界部近位尿細管好塩基性化・集合管好塩基性化・集合管拡張：250♂♀、  腎一腎盂粘膜単純性過形成・皮髓境界部近位尿細管単細胞性壊死・円柱・腎盂拡張：250♀、  膀胱一移行上皮単純性過形成：250♂♀)</p>
回復性	腎↑、腎一皮質境界部近位尿細管好塩基性化・集合管拡張・円柱
他の毒性	<p>[EU-RAR・化学物質有害性評価書より引用]</p> <p>反復投与</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Rat、強制経口(25, 100, 400 mg/kg)、28 日間  NOAEL：100 mg/kg  体重↓(400♂♀)  摂餌量↓(400♂♀)  血液生化学的検査(BUN↑・CHO↑・Glu↓：400♂)  相対重量(腎↑・肝↑・精巢↑：400♂)  組織学的所見(腎一近位尿細管硝子滴沈着：400♂、  肝一門脈周囲肝細胞空胞化：400♂)</li> <li>・ Rat、混餌投与(200, 650, 2000 ppm)(15, 50, 140 mg/kg/day)、90 日間  NOAEL：50 mg/kg/day  体重↓(140♂♀)  血液生化学的検査(AST↑・ALT↑：140♀)  組織学的所見(肝一肝細胞壊死：140♀、腎一尿細管石灰化：140♂)</li> <li>・ Rat、混餌投与(200, 650, 2000 ppm)(15, 50, 160 mg/kg/day)、3 世代  LOAEL：15 mg/kg/day  体重↓(160♂♀)  相対重量(腎↑：50 以上♂・160♀)  組織学的所見(腎一尿細管変性/拡張：15 以上♂♀)</li> <li>・ Rat、強制経口(100, 250, 400 mg/kg)、10 週間  死亡：100 以上</li> </ul> <p>生殖発生毒性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Rat、混餌投与(25, 500, 2000 ppm)、親：妊娠 7～21 日、児：生後 21～77 日  親動物  摂餌量↓：25 以上  F1  体重↓：25 以上♂・2000♀  摂餌量↓：25 以上♂  摂水量↑：2000♂♀</li> <li>・ Rat、混餌投与(200, 650, 2000 ppm)(15, 50, 160 mg/kg/day)、3 世代  生殖毒性 NOAEL：15 mg/kg/day (200 ppm)  子宮重量↑・膈開口早期化・卵巣↓・精巢上体精子数↓：650 以上  精巢精子細胞↓：2000</li> <li>・ Rat、強制経口(2, 10, 50 mg/kg)、  ♂交配前 12 週間前より、♀交配前 2 週間前より妊娠・出産・授乳期まで  一般毒性 NOAEL：10 mg/kg  親生殖能 NOAEL：50 mg/kg  肝↑・腎↑・下垂体↑・胸腺↓・TSH↑：50♂</li> </ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Rat 強制経口投与 (75,150,300mg/kg/day) 親：妊娠 6～15 日 催奇形性はみとめられない 母体毒性 NOAEL：75mg/kg/day、発生毒性 NOAEL：300mg/kg/day 体重↓・摂餌量↓・死亡率↑：300 腎・脾臓の剖検所見：150 以上</li> </ul> <p>変異原性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Ames 試験(TA1537, TA1535, TA100, TA98)： 陰性(With and without metabolic activation)</li> <li>・Ames 試験(TA1537, TA1535, TA100, TA98, E.coli WP2 uvrA)： 陰性 (With and without metabolic activation)</li> <li>・小核試験(マウス)：(陰性)</li> <li>・小核試験(マウス)：(陰性)</li> </ul>
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性であるが、NOEL15mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当
藻類生長阻害	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式：振とう培養 試験濃度：設定濃度 0.46、1.0、2.2、4.6、10 mg/L 実測濃度 0.26、0.61、1.7、3.8、9.2 mg/L (幾何平均値) 助剤：DMF 及び HCO-40 (3:1) 100 mg/L (最高濃度区) 0-72hErC50 (実測値に基づく) &gt;9.2 mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) =0.26 mg/L</p>
ミジンコ急性遊泳阻害	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式：半止水式、24 時間後に換水 試験濃度：設定濃度 0.022、0.046、0.10、0.22、0.46 mg/L 実測濃度 0.017、0.034、0.075、0.17、－ (測定なし) mg/L (幾何平均値) 助剤：DMF 及び HCO-40 (3:1) 4.6 mg/L (最高濃度区) 48hEiC50 (実測値に基づく) =0.059 mg/L</p>
ミジンコ繁殖阻害	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 試験濃度：設定濃度 0.010、0.022、0.046、0.10、0.22 mg/L 実測濃度 0.008、0.018、0.038、0.089、0.19 mg/L (時間加重平均値) 助剤：DMF 及び HCO-40 (3:1) 2.2 mg/L (最高濃度区) 21dNOEC (実測値に基づく) =0.089 mg/L</p>
魚類急性毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法： OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 0.10、0.18、0.32、0.56、1.0 mg/L 実測濃度 0.07、0.13、0.24、0.42、0.94 mg/L (幾何平均値) 助剤：DMF 及び HCO-40 (3:1) 10 mg/L (最高濃度区) 96hLC50 (実測値に基づく) =0.24 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.13 mg/L 群：異常遊泳 (24hr 10/10、48hr 10/10、72hr 10/10) 0.24 mg/L 群：異常遊泳 (24hr 1/10、48hr 9/9、72hr 6/6、96hr 5/5)</p>

魚類初期生活段階毒性	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG210 試験方式：流水式 物質濃度：設定濃度 0.0050、0.013、0.035、0.094、0.25 mg/L 実測濃度 0.0051、0.012、0.033、0.087、0.24 mg/L (算術平均値) 助剤：DMF 約 100 $\mu$ L/L NOEC (実測値に基づく) = 0.033 mg/L 【推定根拠 孵化後の生存率、全暴露期間の生存率、正常個体率、体重、体長】				
他の毒性情報	[化学物質の環境リスク評価 第2巻 (環境省環境保健部環境リスク評価室) より引用] ミジンコに対する毒性として <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <i>Daphnia magna</i> 48hEC50=0.085 mg/L</li> <li>・ <i>Daphnia magna</i> 48hEC50=0.19 mg/L</li> <li>・ <i>Daphnia magna</i> 21dNOEC=0.024 mg/L</li> <li>・ <i>Daphnia magna</i> 21dNOEC=0.071 mg/L</li> <li>・ <i>Daphnia magna</i> 21dNOEC=0.077 mg/L</li> <li>・ <i>Daphnia magna</i> 21dNOEC=0.10 mg/L</li> <li>・ <i>Daphnia magna</i> 21dNOEC=0.12 mg/L</li> </ul> 魚類に対する毒性として <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <i>Oncorhynchus mykiss</i> 96hLC50=0.22 mg/L</li> <li>・ <i>Oncorhynchus mykiss</i> 91dNOEC=0.006 mg/L</li> <li>・ <i>Oryzias latipes</i> 56dNOEC &gt; 1.9 mg/L</li> </ul>				
生態影響判定根拠	ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.059mg/L、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.089mg/L 及び魚類初期生活段階試験において NOEC=0.033mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出限界
	水質	S51	0/8	—	5( $\mu$ g/L)
		S52	0/3	—	0.4( $\mu$ g/L)
		H9	0/123	—	1.1( $\mu$ g/L)
	底質	S51	0/8	—	0.25( $\mu$ g/g-dry)
		S52	3/3	0.05~0.07( $\mu$ g/g-dry)	—
		H9	43/129	0.17~1.3( $\mu$ g/g-dry)	0.15( $\mu$ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	※1 S52、S53、H10 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-828	CAS No.	88-85-7
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当 (平成16年7月2日告示済み) 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：2, 4-ジニトロ-6-(1-メチルプロピル)フェノール 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	第二種監視化学物質として、平成16年7月2日に告示済み。 生殖毒性がみとめられることから化学物質排出把握管理促進法の第一種指定化学物質に 指定されており、人の健康に係る被害を生ずるおそれがあることから、第二種監視化学物 質相当。		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 0.10、0.19、0.36、0.69、1.3、2.5 mg/L 実測濃度 0.095、0.18、0.34、0.68、1.3、2.4 mg/L (幾何平均値) 助剤： DMF 98 μL/L 0-72hErC50 (設定値に基づく) = 1.4 mg/L 0-72hNOECr (設定値に基づく) = 0.36 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 試験濃度： 設定濃度 0.20、0.36、0.63、1.1、2.0 mg/L 実測濃度 0.18、0.34、0.60、1.0、1.9 mg/L (幾何平均値) 助剤： DMF 38 μL/L 48hEiC50 (設定値に基づく) = 0.40 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、24時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 0.0080、0.022、0.063、0.18、0.50 mg/L 実測濃度 0.0078、0.021、0.062、0.17、0.46 mg/L (時間加重平均値) 助剤： DMF 100 μL/L 21dNOEC (設定値に基づく) = 0.062 mg/L		

<p>魚類急性 毒性</p>	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i>          試験法：OECD-TG203          試験方式：半止水式、24 時間毎に換水          物質濃度：設定濃度 0.060、0.090、0.13、0.20、0.30 mg/L                    実測濃度 0.059、0.091、0.13、0.20、0.30 mg/L (幾何平均値)          助剤：DMF 100 <math>\mu</math> L/L          96hLC50 (実測値に基づく) =0.28 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。          0.20 mg/L 群：異常遊泳 (動作の緩慢) (72hr 1/9、96hr 1/9)          0.30 mg/L 群：異常遊泳 (動作の緩慢) (24hr 1/8、48hr 2/8、72hr 4/4、96hr 4/4)、                    表層集中 (48hr 3/8)</p>
<p>生態影響 判定根拠</p>	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.40mg/L、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.062mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=0.28mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>
<p>備考</p>	